

にんげん

みんな舞台上がれ。照明は顔を照らせ。見えないか、彼らに刻まれたしわは、我々は手にすることができない。赤黒さに加え、汗で光沢を放ち彼らは輝く。そらすな。もはやそらすことも出来まい。お前たちを我々の舞台に引っ張り出そう。さあ、みんな舞台に上がれ。

踏み鳴らされる台は軋み不愉快な音を立て彼らの命の轟を後押しする。彼らの目に、ようやく、お前は映っているぞ。見ることは見られていること。お前が目をそらしたところで彼らにはお前が見えている。視線を戻してみろ、彼らの大きな目がさらに大きく見開かれてお前の視線をとらえている。生がそこにある。お前が認めたくないものだ。彼らの頭上に見えるは陽炎か。生を叫び己を叫ぶ者たちの上にだけそれが熱となって表れる。踏み鳴らすは彼らのリズム。彼らの鼓動。彼らは生だ。俺たちは生だ。強く踏み鳴らせ。ここにいる。舞台からこぼれそうに、あふれそうになりながら、彼らはますます強く、早く足を踏み鳴らす。彼らの目は一心にお前を見つめ続ける。零れ落ちる者たちの顔は。見よ。仲間を信じている。零れ落ちる自分の体を省みず、自らの精神を仲間とともにしている。彼らはたたかう。彼らの仲間がそこにいる限り。最後の一人になるまでこの舞台が静まり返ることはない。それはこの舞台が永遠に終わることがないことを示す。彼らがお前たちを彼らの舞台上まで引きずり上げているのだから。さあ、みんな舞台上がれ。黒光りする彼らの汗を浴びる。同じリズムで踊れ。お前にもできる。お前が知っているリズムだからだ。お前の顔も汗で光り出した。